

# あわゆず ふれず

第29号 2014年4月10日発行

伝えよう日本語を  
広げよう徳島から



J T M と く し ま  
日 本 語 ネットワーク

## 日本語を学ぶ子供たちの未来へ向けて

= J T M にほんご教室(子供教室)の取り組み =

### 挨拶からはじまるにほんご教室

毎週日曜日の午後1時15分、とくしま国際戦略センター〈TOPIA〉で、JTMのメンバーによるミーティングが始まります。その頃になると参加する子供たちが少しずつ集まってきます。「あっ〇〇ちゃん。こんにちは、いらっしゃい。もうちょっと待っていてね。」と声をかけると子供たちは笑顔で「こんにちは」と言ってくれます。今、にほんご教室(子供教室)では挨拶をととても大切にしています。



そして、人と人との大切なコミュニケーションツールとして、しっかり身につけてほしいと願っています。

### 個別学習と全体学習

子供教室は一人ひとりに支援者がつく個別学習と全員で学ぶ全体学習の時間があります。個別学習では、それぞれの子供に合った教材を使い、日本語力のアップを目ざします。全体学習は、一つのテーマにそってみんなで学んでいます。防災について、徳島の観光、芸術の秋、伝承遊び等々、子供たちの日本語力や興味、知ってほしいことなどをとりあげて行います。その中で、日本の子供であれば知っているようなおとぎ話や昔話の読み聞かせ、お正月のカルタ遊びなどの年中行事を通して、日本文化にふれてもらいます。

教室から出て体験をすることもあります。7月には徳島県立美術館を訪問し、「美術館とこどもたち」というワークショップに参加しました。子供たちは美術作品を鑑賞したあと、大勢の大人の前で自分の感じたことを発表し、大きな拍手を受けました。9月にはNPO法人新町川を守る会のご協力により、「ひょうたん島クルーズ」を体験しました。自分の住んでいる徳島を川から眺め、楽しんでいる子供たちには、日本がこの徳島がどんなふう映っているのかとあらためて思いました。

### 子供教室のこれから

子供教室では、このような活動を通して、外国にルーツを持つ子供たちの居場所としての役割を少しずつ果たせるようになってきました。支援者を信頼してくれる子供たちは、将来のことや夢を語ってくれるようになります。そのような話を聞くと、少しでも夢の実現に寄り添っていきたいという思いが強くなってきます。子供たちの夢というのは進学であり、それに続く就職です。子供教室での支援が、子供たちの未来への想いをどれだけすくいあげることができるのかということが、これからの大きな課題となってきています。(杜 美智)

## ●文化庁委託●

### 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

# 日本語指導者養成セミナー

第5回、第6回

日時 平成25年9月21日(土) 9:00~16:00

講師 ゲールツ三隅友子 先生  
(徳島大学国際センター教授)

第5回

日本語支援のための異文化理解と外国語としての日本語

9:00~12:00

会場に入ると、壁に絵画のポスターが10枚ほど貼られており、今までと違う雰囲気を感じられ、何が始まるのだろうと興味があった。三隅先生は、1月はじめ生まれの人と12月終わり生まれの人の誕生日を聞き、その2人を先頭と末尾にして、30名ほどの参加者全員にことばは使わず誕生日順に並ぶように指示した。そして、身振り手振りで自分の並ぶ位置を確認し、全員で誕生日順の大きな輪を作っていくことからセミナーは始まった。つまり、言語を使わずにコミュニケーションするとはどういうことなのかということを実践を通して教えられた。その後、誕生日順に4人ずつのグループを作った。

## 美術鑑賞と日本語支援との相通するもの

ここから特別講師として、徳島近代美術館上席学芸員の竹内利夫先生をお迎えし、お話を伺うことになった。竹内先生のお話は、去る4月に県と交流関係を結んでいるドイツ・ニーダーザクセン州に派遣されたときのことから始まった。

その中で、竹内先生は美術鑑賞支援と、外国人への日本語支援とは相通するものがあると考えている。それは、「私は自分の持っている知識を相手に教えるのだという態度ではなく、何を言っても受け止めてくれる存在だ」また、「ああ、自分はそのままの自分でいいんだ、何を言っても許されるんだ」と感じるころから絵画鑑賞は始まるが、このゆだねる感覚を持つことが日本語支援にとっても大切なのではないかとのお話だった。



## 美術鑑賞体験をして

実際に竹内先生がニーダーザクセン州に派遣された時に行った美術鑑賞の授業を受けた。

まず、「ゆらゆらで賞」「しっとりで賞」といった賞の書かれた紙を各班に渡し、会場の壁に貼られた絵に、勝手に賞を付けるという授業で、各班がそれぞれ思い思いに賞を貼り、理由を発表した。一枚の絵に、「消えそうで賞」「ざらざらで賞」と班によって違う賞の札が貼られた絵があり、班の中でも人によって意見が分かれたということだった。そのことで、それぞれの人が同じ絵でも違う印象を持っていることがわかった。

次は、絵をみて、それをカルタの絵札としたら、どんな字札にするか考えるということをした。

三つ目は、言語を使わず「よーい、アクション！」とかけ声をかけて、絵の前でアクションをし、他の人はそれがどんな情景かを推測するというものであった。その絵に描いてないことを想像するというので、絵は何を言っても受け止めてくれる、押しつけになってしまはいけないということを考えさせられた。

これは、日本語支援をするときも同じで、ただ単に文法練習をするのではなく、会話を通じて言いたいことが言えるようになり、互いの文化を尊重し合うことが大切なのではないかと思った。



## 第6回

## 学習者のレベルや目的に合わせた学習方法

13:00~16:00

## 徳島大学で三隅先生が実際に担当しているコースの具体的な紹介

留学生のための日本語上級コースは、異文化交流の授業を受けている日本人学生と一緒に学習し、その後、「日本人への提言」というスピーチを日本人学生と一緒に作成し、実際にスピーチを行って評価し合うという授業である。また、初級コースは、「みんなの日本語」を使って授業をしているが、その中の会話文を使ったタスク学習を実際に体験した。

## スキーマ（考え方の枠組み）とは

三隅先生は、「タスクベースの学習」「場面シラバス」「日本人と触れる」といった学習方法を取り、文化スキーマを意識した学習指導をしている。スキーマとは、考え方の枠組みのことであるが、それは、過去の反応や過去の体験から学ぶものである。

例えば、「お正月」ということばを聞くと、日本人の場合は、日本の伝統的な「お正月」を連想する。しかし、外国人はそれぞれの国のお正月を連想する。そして、すでに持っているスキーマを異文化に触れることによって、新しいスキーマにしていく。ドイツでのお話であるが、三隅先生は、泊まったホテルの朝食ビュッフェに行ったとき、そこに置かれていたワインを見て、飲んででも良い物かどうか分からず、思わずパートナーに電話をして確認をした。そして、ドイツでは朝からワインを飲むという習慣を知り、その後、ホテルの人と話をし飲むことができた。これが、コミュニケーションが成立することによって自分の目的を果たすことができた文化スキーマの例である。

また、午前中の研修は、以前から持っていた美術鑑賞というスキーマが竹内学芸員から違うスキーマを獲得することによって新しくなった。これがスキーマの拡大である。そして、スキーマは活性化することによって広がっていくことのであった。

最後に、今日の研修会は、文化・異文化、日本語教育と文化スキーマというテーマで、多文化共生を目指した日本語教育について考えるきっかけを得るということを目指したものであるとお話で締めくくられた。（長町 順子）



## 〈 受講者アンケートより 〉

- ・ 固定観念にとらわれず表現する楽しさを味わった。
- ・ 伝えられないことにも意味があるということばが印象的だった。
- ・ 日頃使わない思考回路を使ったような気がする。
- ・ そのままの自分でよい、なんと懐の広くて深いことば！
- ・ 徳島大学の授業の上級・初級の授業で映像がたくさん使われていたことが印象的だった。
- ・ 文化的スキーマなど、知らないことを知って自分の枠や考え方が広まった感じがした。

## 講師プロフィール

## Gehrtz 三隅友子(ゲールツみすみともこ)先生

1990年に神戸大学大学院教育学研究科修士課程修了後、1994年から国際交流基金関西国際センターで、日本語教育専門員として勤務。その後、2000年徳島大学総合科学部助教授となり、2002年から同大学留学生センター教授となる。（留学生センターは現在国際センターと改称）留学生と地域との交流を図る「異文化理解教育」を進める一方、「アサーティブコミュニケーション」の講師として、病院や学校を中心に研修を行うなど多方面で活躍している。

## 第7回 「やさしい日本語」～外国人に伝わる日本語とは～

日時 平成25年10月12日(土) 13:00～16:00

講師 牧野 昭子 先生

(海外産業人材育成協会 関西研修センター 日本語講師)  
(国際交流基金 関西国際センター 日本語非常勤講師)

第7回では、「『やさしい日本語』～外国人に伝わる日本語とは～」と題して、次の4つの項目について分かりやすくお話して下さった。

### 「やさしい日本語」とはどんな日本語だろうか

「やさしい日本語」ということばは、阪神淡路大震災をきっかけにメディアで多く使われるようになり、防災に関することばや情報をやさしくしたものを指している。この動きは外国人に話すときには、日本人の意識改革が必要であるという先生の多くのご経験からくる思いと重なる部分があると話された。

### 外国人に伝わる「やさしい日本語」とはどんな日本語なのだろうか

まず、どんなときにコミュニケーションがうまくいかなかったかグループで話し合い、多くの事例を出し合った。ことばが難しい、早口、話が飛び、口ごもるなど話し方の問題、主語や目的語等の省略による話の流れの問題、文化的背景や習慣の違いによる理解の難しさなどである。

### 初級レベルの外国人に伝わる「やさしい日本語」を話すためにはどうしたらよいか

「やさしい日本語」は、「変な日本語」に聞こえることがあるが照れやぎこちなさを忘れることが大切だと話して下さった。具体的な注意点は次のようなことである。

- |   |  |
|---|--|
| <p>①ことばは一音一音はっきり発音し、ゆっくり話す。</p> <p>②紛らわしいことばは言い換えたり、書いたりする。<br/>(しち時ではなく、なな時)</p> <p>③方言や敬語は使わず、です/ます体で話す。</p> <p>④分かりにくい漢語やカタカナ語、擬音語・擬態語は使わない。<br/>(事故で電車が不通です→事故で電車が止まっています)</p> <p>⑥～⑧のように、「言わなくても察する」という日本的な話し方や非論理的な話し方は中上級の外国人にも気をつけたいことで、先生も日々の日本語の授業で心がけていることだと話して下さった。</p> | <p>⑤長文や複文を避け、短文や単文で話す。</p> <p>⑥文を最後まで言う (この部屋、暑くない?→この部屋、暑いのでエアコンをつけてくれますか)。</p> <p>⑦指示詞などを使わず具体的に言う。<br/>(例の件について、あれなんですけど→今度の宴会について、幹事を誰にするかなんですけど)</p> <p>⑧前置きは短く、結論を先に言ってから説明する。</p> |
|---|--|

### 地域に根ざした「やさしい日本語」をめざして

街にあふれる多くの道路標識、案内板、警告表示などは、外国人のために英語での表示が多い。英語は世界共通語だと言われているが全ての人に通じるわけではない。これらのものが「やさしい日本語」で表示されるといいのではないかと話された。

今回の牧野先生のお話を聞き、日頃、外国人と話しているときに相手の目が泳いだり、分かったふりをしうなずいたりしてくれている様子が思い浮かんだ。外国人に通じる「やさしい日本語」を話すことは容易ではないが、改めて反省しその重要性を感じた。  
(玉置 房)



#### 講師プロフィール

#### 牧野 昭子(まきの あきこ)先生

1985年より海外技術者研修協会(現 海外産業人材育成協会)関西研修センターで、主に日本企業で実務研修を受ける研修生、EPA 看護師、介護福祉士候補者を対象に日本語指導に携わる。1986年より大阪YWCA日本語学校、大阪YWCA千里日本語学校など、日本語学校でも教鞭を執る。松下電器海外研修所や株エクセルインターナショナルなど企業での指導経験も多く、日本語コーディネーターとして社員にも外国人に通じる日本語について指導を行う。1997年より国際交流基金関西国際センターで非常勤講師として、研究者、司書、大学院生、外交官等を対象に日本語指導を行い現在に至る。

**第8回****日本語支援者のための音声指導の工夫**

日 時 平成25年12月7日(土) 13:00~16:00

講 師 **竹田 悦子** 先生

(コミュニカ学院 カリキュラム主任)

第8回は、講師の竹田悦子先生の「なぜ、音声指導なのか？」という問いかけから始まった。

**なぜ音声指導なのか……「発音は悪いより、いいほうがいいに決まっている」ということではなく……**

学習者は、きちんと発音できないことで言いたいことが相手に伝わっていないと感じたり、聞き返されると何か間違ったのかと自信をなくしてしまったりすることがある。また、自分の発音の問題を子供に指摘され、プライドが傷つくこともあるなど、本人の尊厳に関わってくる問題なのだ。

**「発音をなんとかしたい」と思っているのは誰なのか**

ただし、私たち支援者はつつい周りから「なんとかしてあげたい」と思ってしまうが、学習の主体である学習者自身が、どのような日本語の使い手になりたいと考えているのかが重要だ。通じればよいと考えるか、日本語らしい音声で自然に話せるようになりたいのか、決めるのはあくまで学習者である。

**音声以外の解決法はないのか……ことばだけでなんとかしようとしな**

例えば、介護現場ではパジャマを見せながら「着替えましょうか」と言うと発音が少しおかしくても相手に伝えることができたり、顔を見て、動作をつけて話すだけでも通じやすくなる。実は、発音が多少不自然でも通じることも多く、周囲の日本人が非母語話者の発音に慣れることも必要になってくる。

**どんな音声上の問題があるのか**

清音、濁音の区別がない言語の場合、「た・だ」などの区別が難しく、また、発音ではなく、リズムや拍に問題があることもある。これは、日本人はお母さんのお腹の中にいるときから、日本語のリズムを聞いているが、外国人にとっては日本語とは違う母語のリズムがあることによる。例えば、「おばさん」が「おばあさん」と聞こえるのは発音より拍の問題だ。特殊音節「っ・う・ん」の発音で3倍の長さを意識すると、拍が劇的によくなる。

**上達のコツ・指導のコツは**

すべての発音ではなく、一度にごく少数、できれば一つの課題に重点をおいて音声指導をすることが重要である。スピーチや仕事の面接時などにキーワードとなることばを集中的に練習する。例えば、スピーチではテーマに関することば、面接では、会社名をきちんと発音する練習をするだけでも相手に与える印象は格段によくなる。また、母語にない音は母語の音に当てはめて発音するために正しい音が出せないということがあるので、学習者の母語の特徴を知ること、的確な音声指導ができる。

今回のセミナーでは参加者が、現場で抱えている課題や学習者が抱えている課題について意見を交換した。「たかが発音、されど発音」と気づかされたセミナーだった。

(加村 匡子)

**講師プロフィール****竹田 悦子(たけだ えつこ)先生**

東京外国語大学外国語学部フランス学科卒業、高校英語教諭を経て、1990年よりコミュニカ学院(神戸市)の日本語講師となり、留学生・ビジネスパーソン・生活者等を対象に日本語教育に携わる。

## 第9回 徳島で暮らす外国人のための日本語支援を考える…〈1〉

日 時 平成25年12月24日(土) 9:00~12:00

講 師 JTMとくしま日本語ネットワーク日本語指導部

最初に、玉置日本語指導部長と部員による活動内容の紹介があった。次に4つのグループ分けがあり、教案作成と模擬授業の発表準備に取り組むことになった。

### 目標と役割分担の決定

各グループに提示された事例

- ①余暇を過ごす場所や利用方法を問い合わせる  
(目標: 図書館へ行き、館内での過ごし方や図書の借り方を尋ねることができる。)
- ②居住地域のゴミ出しの方法について隣人に質問する  
(目標: 分別して正しくゴミを出すことができる。)
- ③街の薬屋で症状を説明し、薬を求める  
(目標: 症状を説明することができる。薬を買うことができる。効能を知って使うことができる。)
- ④カメラ店で商品の機能や値段を尋ねる  
(目標: カメラの機能、値段やメーカーなどの情報を尋ねることができる。買うときの言い方を教える。)

いずれも日常生活にはよくある場面設定である。教室の規模は「少人数教室」、学習者のレベルは「初級」という設定である。



### 目標に沿って8分間の教案を作成

目標確認の後、日本語指導部から教案作成に当たって、①学習者の発話を引き出す教室活動 ②学習者のレベルに合わせた学習方法 ③学習者に応じたやさしい日本語を使う、の3つの目安が示された。

### 作成した教案を使って模擬授業

次に、目標発表者、教案記録者、教師役、学習者役を決め、用意した絵教材や字カード、実物教材等を使って8分間の模擬授業を行った。

例えば、私が属したグループ1では、「図書館の開館時間を尋ねる」に焦点をあて、数字カードや時計の絵を使って、「1から12までの数」と「～から、～まで」を教え、反復練習・定着を図る、という計画を立てた。必要な文字カードや絵カードを作成し、役割を決め、練習をする。決められた時間内でのことなので、ワイワイガヤガヤとやっているうちに模擬授業の発表の時がきた。教師役はベテランMさん、緊張感を感じさせずこなしていた。学習者役の私たちの方が緊張していた。初めに「図書館で」という場面を示すことができなかつたことを残念に思う。グループ2では、「すみません、ゴミはどこに出せばいいですか」「赤いアパートの前です」のこたばを、実物のゴミ袋を使って、模擬授業を行った。(グループ3、4については省略)

### 相互評価と改善点の話し合い

授業のあとでそれぞれのグループの授業の良かった点や改善点が話し合われた。「個別と全員の発話練習の多さ」「字カードの文字の大きさ」「カメラ、ゴミ袋、時計など実物教材の有効な利用」など、良かった点が出され、改善点として「『やっきょく』などのことばは『拍』を使って教える」といふのでは」「体の部位を教える時は、ことばだけでなく、自分の体の実際の箇所を指して言うと分かりやすい。」「一度にあまり多くのことばを教えようとすると目標から遠ざかる。絞って効果的に教えることが必要である。」などが指摘された。

立場の違ういろいろな人たちが「日本語を教えるため」に集い、楽しく学ぶことができた。そして、楽しく学習ができたということは、得ることも多かったのではないだろうか。(岡 久美)

## 第10回

## 徳島で暮らす外国人のための日本語支援を考える…〈2〉

日 時 平成25年12月14日(土) 13:00~16:00

講 師 瀬尾 規子 先生 (吉野川市国際交流協会 会長)  
兼松 文子 JTMとくしま日本語ネットワーク 会長

## 1 吉野川市国際交流協会の取り組みから

はじめに吉野川市国際交流協会についての歴史から、どのような目的でどう取り組んで来たかをパワーみなぎる口調で話された。

瀬尾会長は吉野川市国際交流協会になる前の鴨島町国際交流協会の頃から会長として、21年間、情熱とずば抜けた行動力で、行政や学校教育機関、関係団体と連携を密にして取り組んで来られた。

主な事業内容として、「日本語教室、英会話教室、国際交流クッキング、国際理解講座、外国人講師派遣、国際交流バスツアー、日本語支援者養成講座、阿波踊り国際交流連、教育委員会と連携による学校支援」などが行われているとのことだった。

印象深かったのは、日本語教室で、村上先生と手塚先生は長年日本語教師として非常に熱心に指導してこられたこと、村上先生は80歳になられた今も頑張っていることだった。

最後に周りの人々や他団体との連携、民間と行政との連携の大切さを話され、あらためて連携の大切さを自覚した。

瀬尾会長は、言うべきことはズバツと言ひ、それでいて、ユーモアあり、優しさありでお話は気軽に聞かせていただいたが、示唆に富んだ内容だった。



## 講師プロフィール

## 瀬尾 規子(せお のりこ)先生

吉野川市鴨島町出身。1978年徳島大学薬学部卒。1989年~1991年日本大学文理学部英米文学科在籍、1991年英語科教員免許取得。2010年放送大学院社会経営科学プログラム修了(学術修士)。地域日本語指導ボランティア養成講座(初級・中級コース)修了。大阪にて薬品関係に勤務後、1985年帰郷。現在レデイ薬局に管理薬剤師として勤務。2000年~2004年鴨島町国際交流協会会長、2004年より吉野川市国際交流協会会長。徳島県女性協議会会長。NPO法人協働プランニングNIMS(ナイムス)理事長。JTMとくしま会員。生涯学習コーディネーターほか。国際交流始め、環境保全や男女共同参画社会づくりを目指す活動を行っている。

## 2 徳島で暮らす外国人のための日本語支援を考える

セミナーの最終回にあたり、兼松会長は「外国の人たちと、互いの違いを知り、認め合い、高め合っていくコミュニティを教室から地域に広げていく」ために何が出来るかをともに考えていきたいという目標を掲げた。

兼松会長は1997年にJTMを立ち上げた一人で、2005年に会長になってから、今に至るまで、日本語指導もしながら会長として熱心に日本語支援に取り組んできた。その原動力になったのが、外国人の発した「心に残ることば」なのだと思えた。

例えば次のようなことばである。

「日本語が上手になって日本人と関わりたい。日本の住民の一員になりたい。」「今日から私の新しい人生が始まります。」「うれしくて仕事が終わっても名札を付けたままスーパーへ行って買い物をしました。私には居場所ができた。誇りを持って働いています。」

兼松会長はこうした外国人の「心の叫びやうれしいことば」を糧に、文化庁委託のJTMにほんご教室や日本語指導者養成セミナー等を行い、また県教育委員会、大学、国際交流協会と連携して学校支援に取り組んで来た。

最後に、セミナーで心に残ったこと、これからやりたいことをフリップに書き、全員が発表し、それをホワイトボードに貼って終了した。(山満十糸子)



## 講師プロフィール

## 兼松 文子(かねまつ ふみこ)

徳島大学教育学部小学校教員養成課程修了。1996年、日本語教師養成講座420時間修了。同年、日本語教育能力検定試験に合格。1996年徳島県女性リーダー養成海外派遣団員としてニュージーランドに派遣される。1999年より2年間、派遣団員で構成される徳島県女性海外派遣交流会(ペローラ)の事務局を担当。1997年JTM(日本語教授法)研究会を発足。2001年JTMとくしま日本語ネットワークと改称。事務局を担当。2005年より会長。公益社団法人徳島県労働福祉協議会事務局次長。徳島県少子化対応県民会議および徳島市子ども・子育て会議委員。

## 文化庁地域日本語教育研究協議会に 参加しました

平成25年11月23日に文化庁地域日本語教育研究協議会が開催され、兼松会長、玉置日本語指導部長、事務局、辻の3名で参加しました。JTMは、文化庁の要請により事例報告とポスターセッションにおいて発表を行いました。

日時：平成25年11月23日（土）10：00～16：30

場所：福岡市中央区 アクロス福岡

参加者：約120名

内容：

10：30～10：45 文化庁施策説明

10：45～11：00 文化審議会国語分科会日本語教育小委員会における審議状況の説明

11：00～11：45 「生活者としての外国人」のための日本語教育の標準的なカリキュラム案等を活用した取組の報告

○親子のための日本語教育プログラム

報告者：JTMとくしま日本語ネットワーク

○海岸線708キロ横断：生活者としての外国人との共生事業  
—特に危機管理のための情報と日本語—

報告者：高知大学

13：00～14：00 平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業  
事例発表ポスターセッション

・公益財団法人福岡YWCA

・JTMとくしま日本語ネットワーク

・株式会社愛和学園

・学校法人ゴレスアカデミー

・国立大学法人高知大学

14：00～16：00 「生活者としての外国人」のための日本語教育 分科会ワークショップ

16：10～16：30 分科会の成果共有報告会

事例報告ではJTMの概要や地域の実情と課題、標準的なカリキュラム案を活用した寺子屋での会話学習や読解練習、体験型学習（市立図書館の利用や防災センター見学）の紹介など、昨年度の取組とあわせて今年度の取組や今後の方向性について、写真を多く用い発表を行いました。

午後からのポスターセッションでは、会場後方に5団体がブースを構え、1セッション15分で4回の発表を行いました。JTMのポスターは『子どもと暮らすためのこんにちはとくしま』の紹介を中心に昨年度の取組をまとめたもので、テキストに関する質問が次々と投げかけられました。

その後、標準的なカリキュラム案に関連した3分科会によるワークショップがありました。3名が2つの分科会に分かれ、講師の先生の講義を受け、ワークに参加しました。



(左から玉置、兼松、辻)

事例報告、ポスターセッション、分科会と、大変内容の濃い研修でした。また、文化庁や他団体の方々と、徳島の実情やJTMの活動、他地域

の取組などについて意見交換をすることもできました。重責にプレッシャーを感じながらの準備でしたが、JTMの取組が高い評価をいただいていることを実感することができ、とても貴重な機会となりました。今回のこの経験をJTMで共有し、今後の活動に生かしていきたいと思います。

(辻 暁子)





多文化共生ワークショップ in 徳島大学 (2014年1月22日) 兼松会長講演

## ともに学び、ともに働き、ともに生きる ～多文化共生社会実現に向けた日本語教育の可能性～

今年の1月22日に多文化共生ワークショップが徳島大学で行われた。大学の授業の一環であり、多くの学生、留学生、聴講生、そしてJTMのメンバーも数人参加した。話し手はJTMの兼松文子会長。ワークショップが始まる前に、「先日JTMで話した内容と重なってるんですよ。」ということだったが、若者向けに「働くことによって人や地域とつながりながら『自分の居場所』ができるのだ。」というメッセージも込められていた。

まず、JTMの沿革や自己紹介があった。2005年にJTMの代表になり、徳島に暮らす外国籍の方296人からの声を集めたということだ。「長く日本に住んでいる人ほど悩みが多い」「日本の住民の一員になりたい。」「地域にもっと貢献したい。」という予想していなかった事実が判明した。そこには、日本の社会でくらししていく力強さを感じた。「方向性をともにすると目標は達成できる。」と兼松会長は続けた。その方向性とは「誰もが人に喜ばれ、人の役に立ち、必要とされていると実感できる地域づくりにつながる日本語支援の充実」である。

そして、JTMのユニークさは、独自のネットワークの良さだ。行政、学校、企業、NPO、相談機関、労働者福祉事業団体といった「共通の方向性」を持つ組織をつないでいくことの重要性が話され、「同質（JTMのメンバー同士）の協力は『和』を生み、異質（行政や企業等）の協力は『積』を生む」ということばに実感がこもっていた。（森井 哲也）



平成25年度 JTMとくしま日本語ネットワーク定例会

## よ かつ た 楽 し かつ た 「お国自慢とポットラックパーティー」

今年で5回目となるポットラックパーティーは、80名ほど集まり、参加者の国の「こんにちは」「ありがとう」を皆で言ってもらい、兼松会長の、なごやかな挨拶から始まった。

持ち寄った珍しい料理をいただきながら、全員が自己紹介をした。その後、フィリピンの踊り、太極拳、モンゴルのゲーム、三味線演奏、歌、〇×ゲーム等を楽しんだ。また、その間、お抹茶とお菓子もいただいた。着物の着付けもあり、初めて日本の着物を着せてもらった女の子は、あでやかな振袖姿を嬉しそうに披露してくれた。

フィリピンの人たちによる災害募金の呼びかけもあった。最後に皆で阿波踊りを踊り、記念撮影をして盛況のうちに終わった。（山満十糸子）





# 写真で綴る

日本語サロン



徳島県委託  
夏休み子ども日本語教室



日本語指導勉強会



文化庁委託  
JTMにほんご教室(子供教室)



日本語指導ワンポイントレッスン



城東高校との交流会(子供教室)



日本語指導部研修会



県立近代美術館体験学習(子供教室)



# J T M 活動

文化庁委託  
JTMにほんご教室(大人教室)



公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会主催  
介護の日本語講座



徳島県アパレル縫製工業組合  
外国人技能実習生日本語指導



あわ(OUR)教育発表会 ポスターセッション



文科省国立教育政策研究所視察



徳島中央ロータリークラブ  
支援金伝達式



公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会主催  
就職のための日本語講座



## 他にもこんな活動をしています

- 「徳島県国際交流協会日本語教室」 担当 毎週日曜日
- A L Tのための日本語講座
- 学校からの要請による日本語支援
- 徳島文理大学留学生のための日本語指導
- プライベートレッスン
- 機関誌「あわゆずぶれす」 年2回発行
- 会報「スマイル通信」 毎月1回発行

# INFORMATION

◆会員数(2014年3月31日現在) 正会員数51名 協会会員数2名  
 ◆入会随時受付中! 正会員…会の活動に参加し、ともに運営を行います。  
 協会会員・団体…会の活動を支援する個人または団体

## 活動紹介

ブラッシュアップのために

- ◇日本語指導勉強会  
\*毎月第2土曜日13:30~15:00  
〈模擬授業と意見交換〉日本語に関心のある方ならどなたでも参加できます。
- ◇日本語指導部研修会  
\*毎月第3金曜日または土曜日
- ◇定例会 ◇特別研修会

日本語学習をサポートする交流活動

- ◇日本語サロン  
\*毎週月曜日10:30~12:00  
とくしま国際戦略センター

JTMにほんご教室

- \*毎週日曜日13:30~15:00  
とくしま国際戦略センター

就職のための日本語講座

2013年5月14日(火)~7月8日(月)

介護の日本語講座

2013年9月3日(火)~10月31日(木)

ヒューマンわーくびあ徳島

主催 公益社団法人徳島県労働者福祉協議会

徳島県アパレル縫製工業組合日本語集合研修

2013年9月5日(木)~10月1日(火)

## 日本語レッスン

- ◇プライベートレッスン・グループレッスン  
入門から上級まで、会話や日本語試験対策などニーズにあった学習プランで教えます。
- ◇詳しくは事務局またはレッスン専用メール  
jtm-toku-lesson@mbk.nifty.com まで。

## JTMとくしまのオリジナル教材紹介

Konnichiwa Tokushima

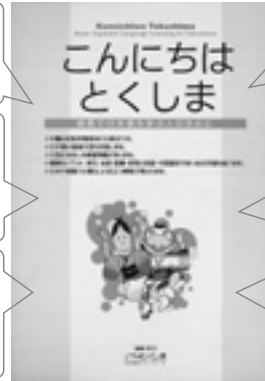
# こんにちは とくしま

徳島で日本語を学ぶ人のために

本書は初級学習者向けの教材です。

文型に対応した練習問題があります。

日本や徳島の暮らしに役立つ情報が得られます。



日本語の基礎文型を学習します。

イラストがたくさんあり、わかりやすいです。

会話と読解、表現の英語・中国語訳があり、自習学習を助けます。

# 子どもと暮らすための こんにちは とくしま

徳島で子どもを育てる人のための日本語教材



- 全12課
- 季節や身近な場面に合わせてどの課からでも学習できます。
- 子育てを通して、まわりの人とうまくコミュニケーションできるようになるための表現が学習できます。
- 学校の通知文の読み書きの練習ができます。
- 生活情報がクイズ形式で学習できます。
- 学校や生活に役立つ情報が得られます。

●ご購入、お問い合わせ JTMとくしま事務局

## あ と が き

3月は寒暖の差が激しく、体調を崩す人も多かったようですが、だんだん日差しも伸び、季節は着実に本格的な春に向かっていきます。

3月14日未明には伊予灘を震源とする地震があり、徳島県でも震度4から2を記録し、久しぶりの揺れにびっくりしました。

2013年度の活動をまとめた「あわゆずぶれす」第29号が出来上がりました。ご覧になって、ご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。

(村松 幸子)

発行/JTMとくしま日本語ネットワーク

発行責任者/兼松 文子

編集責任者/山崎十糸子

編集スタッフ/加村 匡子・玉置 房・辻 暁子・長町 順子  
村松 幸子・杜 美智・安山 政子

印刷/徳島県教育印刷株

■JTMとくしま日本語ネットワーク

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 わーくびあ徳島2階

公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会内

TEL 088-625-8387 FAX 088-625-5113

E-mail jtm-toku@nifty.com

URL http://homepage2.nifty.com/jtm-toku/